平成28 年度医療技術等国際展開推進事業での派遣

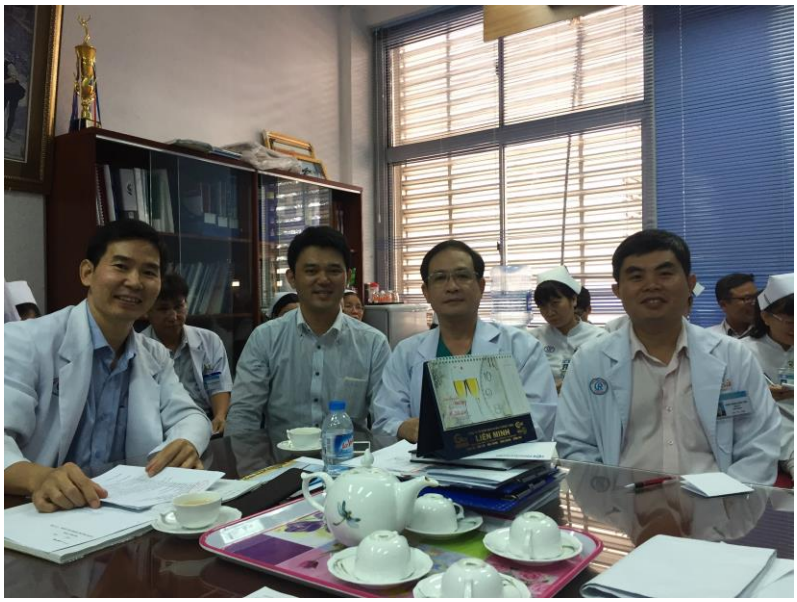
消化器外科　講師　　明 石　義 正

派遣時期：平成 28 年 11 月　7 日　～　平成 28 年 11 月　9 日

初めて訪れたベトナムの印象を表現するなら「カオス」という言葉につきる。通りは人で溢れかえり、道端には人々がひなか一日中たむろし、道路には日本の暴走族をはるかに凌駕する無数のオートバイ、少ない信号機とそれを平気で無視して隙間をすり抜けるバイクや自転車、排気ガスや土埃で汚れた空気、病院の入り口から廊下まで人が溢れ、病室には定員を超えてストレッチャーが置かれ、さらに一つの狭いベッドに二人の患者が寝ている、等々。今日の日本からは想像が困難な、まるで戦後復興期や災害直後といった衛生環境に大きな衝撃を受けた。

一方で、（手術室自体はお世辞にも綺麗と呼べるレベルではないものの）胸腔鏡と腹腔鏡を併用した食道癌手術など先進国と変わりのない手術が、超音波凝固切開装置や自動縫合器など最新の医療機器を用いて実施されており、Dr. Trung を中心とした GI surgery unit の手術の質は日本の外科医から見て決して見劣りするものではなく、衛生環境と手術の質のギャップに驚かされた。手術の技術的側面では、鏡視下手術の普及により手術ビデオが比較的容易に入手でき、また複数の外科医の手術を直に見て学習可能な現状が、施設や国境を超えて技術水準の平均レベルを大きく引き上げていることを改めて実感できたし、GI unit のスタッフドクターは日本を含めた諸外国への研修経歴を持っており、国際交流の成果・重要性も実感することができた。

まだまだ国としては発展途上であるが、病院の衛生環境を改善してベトナムの人々が人権を配慮した医療が受けられるように、今後も本事業で人的交流が継続していくことは非常に意義深いと思う。この度は得難い経験をさせていただき関係諸氏に感謝申し上げます。



GI unit の Dr. Trung, Dr. Lam, Dr. Tien と

鏡視下食道癌手術の様子